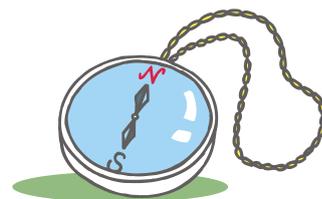


羅 針 盤

第 **21** 号

令和5年10月23日（月）



◆ 読書週間とは

読書週間とは、毎年10月27日～11月9日までの2週間という期間を指します。始まりは1945年の終戦の2年後となる1947年で、現在に至るまで75年以上も継続されている習慣です。終戦から2年後の1947年に始まったのは、戦争の傷跡が日本の各地にまだまだ残っていた当時、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」といった決意が込められて開催されたのがスタートだそうです。現在では、2001年に子どもの読書活動の推進に関する法律が施行されて、国としても本格的に子どもの読書活動の推進に取り組んでいます。「良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話をかわすようなものである」この言葉は、フランスで生まれた合理主義哲学の祖であり、「近世哲学の父」として有名なルネ・デカルトが残したものです。「我思う、ゆえに我あり」といった哲学史の中でも有名な命題を問いかけた彼は、読書を通じて著者との会話を楽しみ、ただ読むだけでなく思考という行動を大切に、著者への質問を考えることで自らの視点を広げ、著者の思考や体験を読み取ることで、自分の知り得なかった世界に触れることから多くのことを学び取ろうとしていたと言えそうです。生徒の皆さんにも、今の自分を見つめ直して、今の自分を成長させてくれる価値ある書物と出合っしてほしいと思います。本の中には、未曾有の宝がたくさんねむっており、新しい世界が大きく広がっていて、本を読むことを通じて、過去の優れた人からの生きていくうえでの知恵といったものまで得ることができるはず。柔軟な思考が培われ、好奇心が育まれて、みずみずしい感性といったものを持つことで、人生がより豊かなものへと輝きを増していくものとなっていくはず。

読書週間



◆ 全タイトルを制覇し、八冠獲得！

10月11日（水）に、将棋の王座戦五番勝負の第4局が行われ、挑戦者の藤井聡太七冠が永瀬拓矢王座を破って、将棋の八大タイトルの一つである「王座」を獲得しました。これまでに藤井聡太七冠は、棋聖・竜王・名人・王位・叡王・棋王・王将という七つのタイトルを保持しており、唯一残っていた王座のタイトルを奪取したことで、前人未到の八大タイトルの全冠達成という偉業を成し遂げることとなりました。将棋の全冠制覇は羽生善治九段が全七冠時代の平成8年、25歳で達成して以来の快挙であり、藤井聡太七冠のようにタイトル戦不敗の21歳で全冠制覇するようなことは今後破られない出来事かもしれません。彼の強さの秘密は、何とんでも「研鑽（けんさん）」の2文字に表されています。新型コロナウイルス感染拡大が影響した時、藤井八冠は公式戦の対局ができない日々が続いても、繰り返しこれまでに指した対局をじっくりと見直していたそうです。現代的な将棋ソフトに頼るだけでなく、あくまでも自分自身の頭での読み筋や形成判断を精査し直した彼の姿から、日々の「研鑽（けんさん）」に勝るものはないということ、私たちも学ばなければいけません。